

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：健康・スポーツ科学

部会長名：柳田泰義

作成者名：柳田泰義

概要（2000字）

【授業の概要について】

健康・スポーツ科学部会は、人間発達環境学研究科 18 名、海事科学研究科 2 名および保健学研究科 2 名、合計 22 名から構成している。健康・スポーツ科学部会では、「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」、「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」、「健康・スポーツ科学講義」の科目を開設している。これらの科目を通して健康・スポーツ科学では、身体と健康に関するすべての学問を学際的な視野のもとで総合化し、健康で豊かな生活の実践と能力の開発に関する知識を学ぶことを目標にしている。

健康・スポーツ科学実習では、健康科学、スポーツ科学、生涯スポーツの 3 分野を柱にしたカリキュラム構成になっている。「健康・スポーツ科学実習Ⅰ」では、健康を見直す健康科学、運動のスキルを科学的な視点から身につけるスポーツ科学を学習する。「健康・スポーツ科学実習Ⅱ」では、生涯にわたるスポーツ実践と健康習慣の習得を目的に、各種のスポーツ実技を実習するとともにスポーツ種目の文化的側面の理解と、ルールと戦術を学び、自らがゲームを実践できる能力を学習する。「健康科学講義」では、健康科学とスポーツ科学の入門編として人間の健康行動と健康増進に関する科学的知識を身につけ、健康・スポーツの科学的基礎を学習する。

健康・スポーツ科学実習Ⅰでは、全学共通授業科目として学部を中心としたブロックにより（一部複数学部から構成）、前期の月曜日から木曜日までの 13 枠を開講している。健康・スポーツ科学実習Ⅱは、後期の月曜日から木曜日の 4 日間において、健康・スポーツ科学実習Ⅰと同じように学部（一部複数学部から構成）を中心としたブロックにより、9 枠を開講している。実習Ⅰ・Ⅱにおいては、教育効果、安全性の確保、教場の条件などから、最大限 1 クラス 40 名を限度にしている。専任教員と非常勤講師とも開設授業の理念・シラバス・評価等について共通の観点を持つために、健康・スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱの資料を作成し、専門性を活かしながら効果的な実習を展開している。また、第 1 回目の授業のガイダンスで、ガイダンス資料をもとに本授業の目的、授業の目標、成績評価などを学生に周知している。

健康・スポーツ科学講義は、前期 3 枠、後期 3 枠を開講し、8 名の講義担当教員が生活習慣病、生活機能病、健康に関わる様々な行動（喫煙行動、飲酒・薬物乱用行動、性行動など）、メンタルヘルス、母子保健、環境保健などテーマ別に開講している。また、講義担当者を中心に教科書を執筆し、それをもとに共通の内容が提供できるように工夫している。さらに、保健管理センターの教員との連携でエイズ教育に関する内容も提供し、この分野に関する啓蒙を実施してきている。

【今年度工夫した点】

体育館内が改装になって、学生の体育館使用に関して注意を与えた。すなわち、更衣室の使用については授業前に事務補佐員が解錠を行い、その日の授業終了後 15 分で施錠することで学生更衣室の維持に努めた。夏場が記録的な猛暑となったので、学生ともども教員の暑熱安全に気を配った。具体的には飲水の勧め、水筒の持参を促した。

3 月 3 日に非常勤と専任が相集い、新年度授業展開のために、神戸大学の教育理念、共通教育の理念を確認し、健康・スポーツ科学へどのようにつなげるのか。また、共通の評価尺度を確認した。そのご、FD 研修会として文教大から小林勝法教授にご講演をお願いして、新しい年度を前に有意義な時間を共に過ごせた。

**【改善しようとした点】**

学生更衣室や体育館玄関、そしてトイレの丁寧な使用維持。

**【優れていると思われる点】**

今年度は文部科学省からの依頼で体力測定を実施した。各時間で教員同士で協力し合いながら実施し、結果を文部科学省に報告できた。

**【改善すべき点】**

今年度概算要求にも提出したが、諸施設の老朽化で修理を要する個所が年々増えつつある。すでに限界を超えて、例えば第二体育館天井板が外れかけており、落下すれば重大事故にもつながる。単なる授業効果のための改善とは異なる概算要求であることを認識する。

様式2（続き）

**項目・観点ごとの記述**

基準5 教育内容及び方法

5-1-②： 授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿ったものになっているか。

（観点到に係る状況）

学生自らが積極的に授業に取り組み、自らの健康維持増進に成果が上がっているかは、すべての学生に配布し、授業の中で実際に取り組み内容が含まれている。そして、そのせいか、結果は記録し、事後の反省材料として保存している。

根拠資料

実習ノート、雨天時等で授業ができない場合には教室内で座学するプリント、DVD 教材等。

5-1-③： 授業の内容が、全体として教育の目的を達成するための基礎となる研究の成果を反映したものとなっているか。

（観点到に係る状況）

学生評価アンケートを参考にして各教員は実施している。また、一部の教員は独自でアンケートを作成して簡単な学生評価を受けている。本年ははじめてベストティーチャー賞を実施されて、一名の非常勤講師が選出され表彰された。この方は本学の卒業生であった。

根拠資料

学生評価アンケート、個人のアンケートは割愛。

5-1-⑤： 単位の実質化への配慮がなされているか。

（観点到に係る状況）

実技の授業では授業開始時間に出席を厳格にとり、遅刻や早退についても独自の尺度で学生に対応し、厳正な評価を行っている。

根拠資料

健康・スポーツ科学実習のシラバスと学生への説明。

5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、多様なメディアを高度に利用した授業、情報機器の活用、TAの活用が考えられる。）

（観点に係る状況）

講義に関しては共通教育の目指す少人数教育の実現にむけて実施している。実技は教員一名に対して40名を限度として受講しているが、入学者人数が増えたために40名枠を超えてしまうケースも出てきて、各学部への定員数の厳守をお願いする。体育館機能測定室には数種類の機器が設置してあるが、まだまだ十分ではない。概算要求もしているが早急な対応が可能となれば、学生の積極的な受講ももっと盛んになると思う。

根拠資料

TA 任用計画。実習ノート。授業時の配布資料、記録紙

5-2-③： 自主学習への配慮，基礎学力不足の学生への配慮等が組織的に行われているか。

(観点に係る状況)

実技授業時には家庭でもできる内容の筋力運動を展開することで、課外活動内や、自宅での休日に実践できるように指導している。

根拠資料

実習ノートには簡単な測定方法。簡単な柔軟運動方法が紹介されている。

5-3-②： 成績評価基準に従って、成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

ガイダンス時において説明しており、重要な教員同士のコンセンサスも十分である。

根拠資料

ガイダンス資料。

基準6 教育の成果

6-1-③： 授業評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

個々の教員レベルで工夫をこらしている。カロリーカウンターを新規に新製品で購入し、自己レベルでの実施と評価を行っている。

根拠資料

実習ノート

基準7 学生支援等

7-1-②： 学習相談，助言（例えば，オフィスアワーの設定，電子メールの活用，担任制等が考えられる。）が適切に行われているか。

(観点に係る状況)

事務補佐員が常駐しているので、急を要する場合等はその方を通じて連絡を受け、さまざまな質問等に対応できるようになっている。

根拠資料

ガイダンス資料。学生授業評価。アンケート調査。